

圏央道は、明治の森高尾国定公園や都立高尾陣場自然公園を通ります。このため、地域の種の多様性にも配慮し、「地域性苗木」による緑化を実施しています。地域性苗木とは、その地域に自然分布して生育している種（在来種）の樹木の種子から育成した苗木のことです。

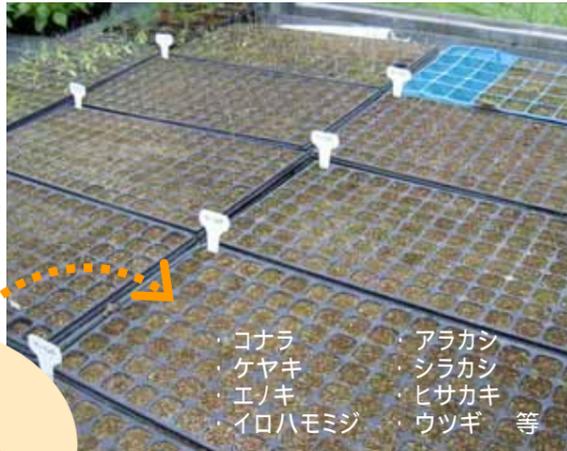
地域性苗木ができるまで



地域の樹木から種を採取



各地で採取した種は、NEXCO総研緑化技術センターに送って育てます。



種撒き(はじめは小さいトレイに播種)

- コナラ
- ケヤキ
- エノキ
- イロハモミジ
- アラカシ
- シラカシ
- ヒサカキ
- ウツギ 等



芽が大きくなったら、少し大きいポットに植え替えます



のり面植栽の状況
このように、1本1本植えていきます



ポット苗
のり面の状況に合わせて使い分けています
成長した苗は、工事の現場へ送られ、のり面に植えられます



苗木はビニルハウスの中で2～3年育てられます

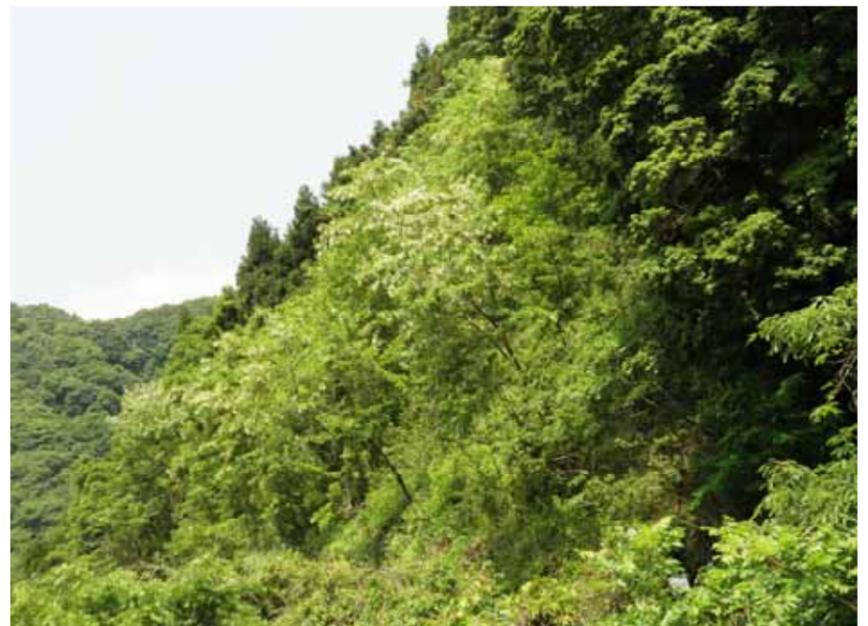


なぜ地域性苗木なの…

植物は地域によって形質が異なるため、別の地域から運んできた植物を植えてしまうと、地域の生物多様性に影響を及ぼす可能性があります。地域性苗木は、地域の生態系、生物多様性に配慮した緑化手法として注目されています。



植栽の状況(2000年)



約10年後の状況(2010年)